

「公印省略」

2 農林試第 2542 号-11
令和 3 年 3 月 3 1 日

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 2 年度病虫害発生予察技術情報第 11 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 11 号（ナシ赤星病）を発表したので送付
します。

技術情報第 11 号

1 対象作物名：ナシ

2 病虫害名：赤星病

3 発生地域：県下全域

4 ナシへの感染最盛期：前年よりやや早い（3月6半旬頃）

5 根拠

- （1）県下 3 地点のナシ園周辺のビャクシンにおける、ナシ赤星病菌冬孢子堆調査の結果、3月5半旬時点での膨潤率は 46～80%（前年値 57～78%）、成熟度は 23～49（前年 24～30）と、膨潤程度は前年よりやや早かった（表）。
- （2）4月1日起算の「冬孢子堆発芽最多期予想の回帰式（福岡県立園芸試験場、昭和 45 年）」によると、ビャクシンからの小生子の飛散ピークは 3月24日（前年予想日：4月3日）以降の降雨後と予想される（表略）。
- （3）福岡管区气象台 3月25日発表の 1 か月予報では、降水量は平年並み、前半の気温がかなり高いと予想されている。

6 防除上注意すべき事項

- （1）ナシ園周辺のビャクシン上の冬孢子堆の状況把握に努め、週間天気予報で降雨日を把握しながら、適期防除に努める。
- （2）薬剤防除に DMI 剤や SDHI 剤を用いる場合は、薬剤耐性菌の発生リスク低減のため、異なる系統の薬剤をローテーション散布し、同一系統剤の使用回数は春季防除で年 1 回、年間でも 2 回以内にとどめる。
- （3）防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し、周辺圃場への薬剤飛散防止対策を講ずる。

表 バックシンにおけるナシ赤星病冬孢子堆の成熟状況（水浸法）

調査地点	調査時期 月-旬	平成30年		平成31年		令和2年		令和3年	
		膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度
朝倉市	3-5	7	2	30	8	78	27	46	23
	4-2	100	80	91	53	69	27		
	4-5	-	-	-	-	100	80		
八女市	3-5	19	5	14	4	74	30	78	39
	4-2	100	84	88	61	97	50		
	4-5	-	-	-	-	100	79		
筑紫野市	3-5	14	4	42	11	57	24	80	49
	4-2	-	-	100	70	93	53		
	4-5	-	-	-	-	100	87		
平均	3-5	13	4	29	8	70	27	74	41
	4-2	100	82	93	62	86	43		
	4-5	-	-	-	-	100	82		

注1) バックシン上の冬孢子堆を水に30分浸漬し、膨潤程度を、A：冬孢子堆が外観的に完全に膨潤、B：一部が未膨潤、C：約50%未膨潤、D：一部膨潤、E：全く膨潤していないの5段階で評価後、膨潤率と成熟度を下記の式により算出

注2) 膨潤率 = (A + B + C + D) / 孢子堆数 × 100

注3) 成熟度 = [(4A + 3B + 2C + 1D) / (4 × 孢子堆数)] × 100

注4) -は欠測

＜参考＞ 満開日予測は「幸水」で3月30日頃と前年より8日早く及び平年より9日早い。
(令和3年3月25日福岡農林業総合試験場果樹部調べ)。



＜冬孢子堆膨潤程度＞

- A: 冬孢子堆が外観的に完全に膨潤する。
- B: 一部未膨潤冬孢子堆を残す。
- C: 約50%未膨潤冬孢子堆を残す。
- D: 一部膨らむ。
- E: すべて無膨潤である。

図 バックシン上における赤星病冬孢子堆

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

福岡県病害虫防除所



最新の病害虫発生状況